

## 大きなけやきの木の下で 絵本のはなしをしましょうよ。



2022年 5月の終わり こまばようちえん

みなさま、こんにちは！ けやきの葉がふさふさになってきました。園庭では、子どもたちが、生き生きと遊んでいます。

今年度初めての「絵本ブックトーク：けやきの木の下で 絵本のはなしをしましょうよ」をお届けします。私、須藤麻江と、「本の部屋」担当の近藤千春先生とで、さまざまな絵本を紹介していきます。

毎日お忙しいことと思いますが、お子様と絵本を楽しむひとときを持っていただけたら嬉しいです。

では、大きなけやきの木の下で、絵本のはなしをいたしましょう。

・絵本はざっくりと次のように対象年齢にそって紹介していきます。ただ対象年齢はあくまで目安です。お子さんが興味を示した絵本、お子さんに読んであげたいと思った絵本を見つけたら、手にとってみてください。

- ① たんぽぽ組・年少組のみなさんに②年中・年長組のみなさんに③大人のみなさんに
- ・「重版未定」の絵本も積極的に取り上げます。図書館に入っていますし、リクエストが多くなると復刻される可能性もあります。
  - ・紹介した絵本は重版未定も含めて藤井チズ子前理事長からいただいた寄附金で極力購入し、本の部屋に入れます。藤色のテープが目印です。



●こんにちは。近藤千春です。よろしくお願いします。●

新入園児の保護者のみなさま、はじめまして。在園児の保護者のみなさまは、こちらの「絵本紹介」でおつきあいくださっていることに感謝です。【本の部屋☆移動図書館】では、いつも素敵なお手伝いをありがとうございます。

私は元幼稚園教諭で、今は「語り手」「児童文化実践講師」「子育て支援施設

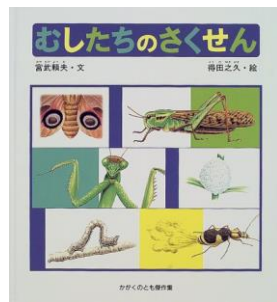
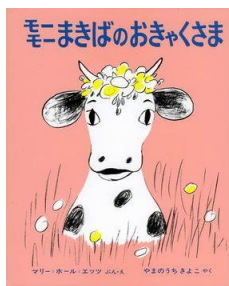
保育士・相談スタッフ」として働いています。乳児から大人までのそれぞれの場で、有形・無形の児童文化財を仲立ちに楽しいひとときを共有したり、子どもの発達や親子関係でたいせつなことを「遊び」を通じてお伝えしています。「好き」が高じて仕事をするようになりました♡ 息子二人は社会人。次男はこまばっこです。一昨年にはあばデビュー。どうぞよろしくお願いいたします。

① たんぽぽ組・年少組のみなさんに。



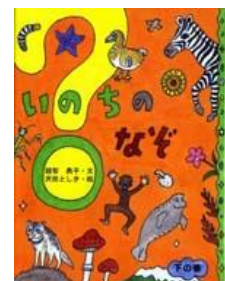
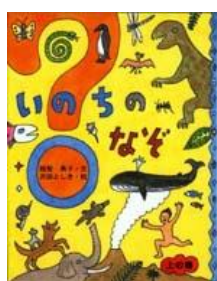
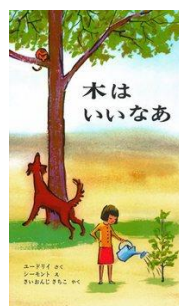
「あさだ おはよう」 「あめ ぼぼぼ」 「とらたとまるた」「かあさんねずみがおかゆをつくった」

② 年中組・年長組のみなさんに。



「モーモーまきばの おきゃくさま」 「むしたちのさくせん」 「パンのかけらとちいさなあくま」 「スーザンのかくれんぼ」

③ 大人のみなさんに。



「でんでんむしのかなしみ」「木はいいなあ」 「いのちのなぞ上下」

① たんぽぽ組・年少組のみなさんに。



● 『あさだ おはよう』

三浦太郎・作 童心社 880円/2021年

じゃがいもの赤ちゃんは、とりが「ちちち」となっていて、おめめ、ぱっちり、「おはよう」。にんじんのかあさんは、時計が「リリリ」となって、「おはよう」。おやおや、えだまめの兄弟たちの時計は……グーグー寝ています。父さんがおなべをかかかか鳴らしたら、みんな、おめめぱっちり。あさだ、「おはよう」。あー、よかった。幼稚園に行く日の朝、みんなは、どんなふうに目覚めているのかしら。ふと、そんなことを思いました。(須藤)

● 『あめ ぽぽぽ』

ひがしなおこ・作 きうちたつろう・絵 くもん出版 880円/2009年

もうすぐ、梅雨ですね。雨の日はうっとおしいですが、雨の音に耳をすましたくなる絵本です。「ぴとぴとぽとん あ あめがふってきた ぴとぴとぴと」。「さあさあ」「ぽ ぽ ぽ ぽぽぽぽぽ」「ぴちよんぴちよん」。砂場を「じゃくじゃく」歩いて、水たまりに「じゃぽん」。雨の日散歩も、なかなか楽しいですよ。(須藤)

● 『とらたとまるた』

なかがわりえこ 文 なかがわ そうや 絵(福音館書店)817円/1982年  
※重版未定

とらの子とらたが、転がっている一本の丸太を見つけました。「あ、うまだ」すると丸太は「そりゃ、もちろんわたしはうまだ」と答え、とらたはその馬(まるた)にまたがって元気にかけてくれます…。読むたびに、幼い子どもと遊びのめくるめく世界にあらためてこころの目をひられる思いがするのはわたしだけでしょうか。幼児期の子ども時代にこそ輝きを放つ遊びは？と訊かれたら迷わず、見立て遊びやごっこ遊びと答えたいです。洗練されたおはなしの文章にピッタリと一致した絵の構成(シンプルな描線と余白にウツリ)。どれを読んでも楽しい「とらた」シリーズの1冊です。(近藤)

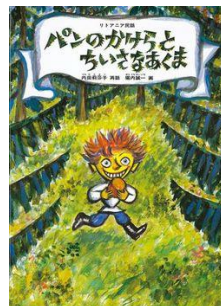
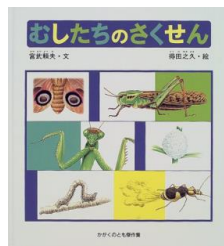
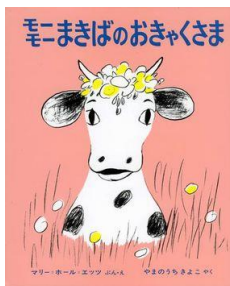
● 『かあさんねずみが おかゆをつくった』

ヘレナ・ズマトリーコバー 絵 チェコのわらべうた いで ひろこ 訳  
(福音館書店) 1100円/1984年※重版未定



世界中にある、わらべうたの文化と伝承。その豊かさに興味が尽きません。幼い子どもの幸せを願う大人が、わらべうたの“子どもをよろこばせ、育てる力”に手ごたえを感じながら、愛情をこめて「ことばの離乳食」「ことばあそび」を一緒に味わい楽しんできたのでしょうか。これはチェコのわらべうた＝童詞のユーモラスな絵本で、原語の「韻文(いんぶん)のひびきの美しさ」を生かすべく訳されています。読み始めれば、あらふしぎ！はずむようにリズムカルに読みたくなりますよ♪最後のページで大人はギョッとするか、苦笑するか、なるほどとなるのか…さあ、あなたはどっち？！（近藤）

## ② 年中・年長組のみなさんに。



### ● 『モーモーまきばのおきゃくさま』

マリー＝ホール＝エッツ・文・絵 やまのうちきよこ訳(偕成社)  
1540円/1969年

エッツの描く生き物たちは、なんてかわいらしいのでしょうか。モーモー牧場のうしさんが、あまりに草がおいしいのでみんなにごちそうしたいと思いました。カケスがそのことをみんなに知らせに行くのですが、ごちそうは「草だけ」ということは黙っていました。みんながやってきて、楽しくあそんで、さあ、ごちそう！となったときに、「えー、草だけ？」と帰ってしまうお客さんたちがいて、うしさんはがっかり。でも、だいじょうぶ。うしさんは、自分と好きなものが同じ友だちを見つけることができたのですから。(須藤)

### ● 『むしたちのさくせん』

宮武頼夫・文 得田之久・絵 (福音館書店)990円/2000年

ちいさな虫たちは、命をまもるためにさまざまな作戦を実行しています。「かくれんぼ作戦」「しにまね作戦」「おどかし作戦」。特にすばらしいと思ったのは、アゲハチョウ。幼虫は白と黒のマダラで、鳥のふんのようです。すごい姿だなと私も思っていたのですが、実は鳥に食べられないように、鳥のふんに化けているんですって！1996年「かがくのとも」4月号のハードカバー版。(須藤)

### ● 『パンのかけらとちいさなあくま』〈リトアニア民話〉

内田莉莎子 再話 堀内誠一 画(福音館書店 990円/1992年※重版未定  
語り手として気づいたことのひとつが、悪魔やどろぼうが出てくる物語には子

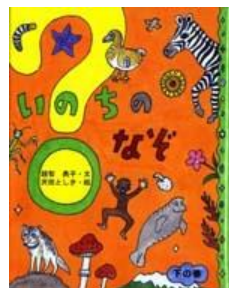
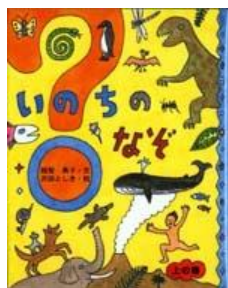
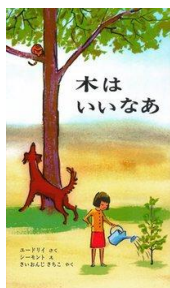
どもたちはひととき興味のアテナを立てて喜んでくれるということです。だからこの絵本もとても喜んでくれます。昔話は基本的に聞き手の年齢を選ばないのもありがたいです。ありがたいといえば、この絵本の悪魔はみんな良心的。貧しいきこりのなけなしのパンをぬすんでしまった小さなあくまもその罪ほろぼしとおわびがしたくて、能力と機転を使いこなし、きこりをハッピーにすることができました。ほんとうの悪人にはバチが当たることとあわせて痛快。個人的に大好きなページは、金色に輝く麦畑の絵です。「麦秋＝ばくしゅう」という言葉は初夏の季語だと知った時、真っ先に思い出しました。(近藤)

● 『スーザンのかくれんぼ』

ルイス・スロボドキン 作 やまぬし さとこ 訳(偕成社) 1320円/2006年  
※重版未定

スーザンは、クモが大きらい。ビンの中のクモを見せたがるおにいさんたちから逃げて隠りたいのです。おかあさんやおとなりさんたちに、次々と隠れ場所をおしえてもらうのですが、どこもいまひとつ。途方にくれたスーザンが座りこんだのは、緑の葉が下へ豊かに生い茂る、大きなやなぎの木の下でした…。ほら、かくれんぼのドキドキするあの感じ！そして、自分だけが知る心から安心できる場所はきっと、大人にも必要ですね。ところでスーザンの秘密の場所はほんとうに誰も気がつかないのでしょうか(これは大人の楽しい深読み)。あたたかみとユーモアあふれる傑作物語絵本です。(近藤)

③ 大人のみなさんに。



● 『でんでんむしのかなしみ』

新美南吉・絵 野見山暁治・絵 (星の環会) 1980円/2016年  
正確な本書の名前は「国語が楽しくなる新見南吉絵童話集(1)でんでんむしのかなしみ」です。他にも新美南吉の作品を絵本化した作品がありますが、野見山暁治さんの絵にとっても味わいがあるので本書を紹介することにしました。一匹のでんでんむしは、ある日大変なことに気がついてしまいます。背中の中の中には悲しみがたくさん詰まっているのではないかと。そして、友だちに聞きに行きます。ゆっくりゆっくり。最後の「そして、このでんでんむしはもう、なげくのをやめたのであります。」という一文に余韻が残ります。でんでんむしはなにを悟ったのかな、悲しみはもう悲しみではなくなったのだろうか……と私はいつも考えてしまいます。(須藤)

● 『木はいいなあ』

ユードリイ 作 シーモント 絵 さいおんじ さちこ 訳(偕成社)1100 円 /1976 年

小4まで、九州の山の中で育ちました。庭からも縁側からも365日、目の前にある雄大な山々の(当時はそう見えた)、それはそれは美しい稜線を今も覚えていてます。東京での暮らしに慣れはしても、コンクリートジャングルに息苦しくなると、小さかった我が子を連れ出しては、長野や山梨の森へ遊びに行ったっけ…と、前置きが長くなりましたが、心の底から「木はいいなあ」と思います。「自然」から無償で与えられ、学ばされる恩恵はとても言葉にはできません。誰にもわかる言葉で「木」のすばらしさを語りつくすこの美しい絵本、一家に一冊あったら素敵ね～。と勝手に妄想中(笑)。1957年コルデコット賞受賞。(近藤)

● 『いのちのなぞ 上巻・下巻』

越智典子 文 沢田としき 絵 (朔北社)2860 円/2007 年

「なんで&どうして」病。個人差はありますが、3歳を過ぎた多くの子どもが発症する(?!)素敵な現象だと思います。1日中もう大変!なんて親御さんの声も。でも、子どもの知的好奇心や科学的哲学的な視点が育ち始めたという喜ばしい成長のあかしでもありますよね。子どもが幼いうちはファンタジー(空想)の要素をたいせつに、子どもが自分に引き寄せたり共感できる範囲のことばにして伝えるといいのではないかなと思っています。たとえば、以前ご紹介した絵本『ゆかいなかえる(福音館書店)』や『じっちょりんのあるくみち(文溪堂)』などは、自然科学とファンタジーが見事に融合している楽しい絵本です(『かぜはどこにいくの(偕成社)』もオススメです)。

さて、この『いのちのなぞ』上下巻。興味があれば小学生低学年から満足できるのではないのでしょうか。全7章・55のなぞにわたる、私たち人間を含む地球上の生きものの命についての「質問と答え」形式。第1章「いのちのはじまり」から「わたして何だろう」そして最後の章「うまれて、死んで、またうまれて」…。哲学的な問いにも科学的視点をふまえながら、作者が丁寧に誠実に答えます。その一つひとつの言葉には思慮深さと深いまなざしを感じ、清潔感があってわかりやすく優しげな絵と併せて、読者への愛を感じます。生きとし生けるものへの生命賛歌。(近藤)